

International Theatre Conference Forum Final in Saitama
世界劇場会議国際フォーラム Final in さいたま



参加申込要項

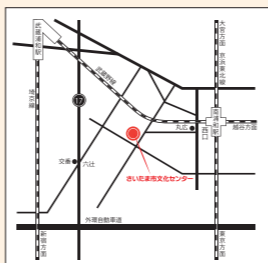
●参加費
フォーラム参加費 **3,000** 円 (当日にお支払いください)

●申込方法
<https://formok.com/f/jacoaru3>
Fax. 048-837-2572



●会場案内
さいたま市文化センター

〒336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1
Tel 048-866-3171 Fax 048-837-2572
※電話・Faxのおかけ間違いのないよう十分ご注意ください



JR南浦和駅西口下車徒歩7分
戸田西ICより6.5km/外環浦和ICより2.5km
駐車場137台完備(有料)最初の1時間無料。
1時間超から1時間30分以内は220円以降30分毎に
110円を加算します。(10円未満切り捨て)
※駐車場に限りがございますので、公共の交通機関をご利用ください。

申込締切 **2023年1月20日(金)**

※当日の参加もお受けいたします。ただし参加者多数の場合はお断りする場合がございます。

申込お問合せ (公財)さいたま市文化振興事業団「世界劇場会議国際フォーラムinさいたま」係
〒336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1
<https://saitama-culture.jp/sekaigekijokaigifinal>
Tel. 048-866-4600 (SaCLa インフォメーションセンター)
Fax. 048-837-2572
Email. bosyuu@saitama-culture.jp

世界劇場会議国際フォーラム Final in さいたま 参加申込用紙

ふりがな	性別	年齢	所属団体
お名前	男・女	才	
※団体申込の場合は代表者をご記入の上、参加者名簿をお送りください。			
ご連絡先	〒() () () 都道府県 区市郡		
	電話 () () ()	FAX () () ()	
E-mail			

参加費	フォーラム参加費 3,000 円 ×	人	合計	円
	参加費納入に際しての請求書	<input type="checkbox"/> 必要	領収書の発行	<input type="checkbox"/> 必要
請求書 領収書の 宛名				

International Theatre Conference Forum Final in Kani
世界劇場会議国際フォーラム Final in 可児

2023年1月26日[木]~27日[金]
会場: 可児市文化創造センター ala 小劇場

詳細はwebサイトをご覧ください。 <https://www.kpac.or.jp>

International Theatre Conference Forum Final in Saitama

世界劇場会議
国際フォーラム
Final in さいたま

2023年1月31日[火]~2月1日[水]
会場: さいたま市文化センター 多目的ホール

テーマ
劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているか
~文化芸術による社会的処方箋活動の実践と評価~



主催: (公財)さいたま市文化振興事業団
共催: さいたま市、NPO法人世界劇場会議名古屋 企画・協力: (公財)可児市文化芸術振興財団
後援: (公社)全国公立文化施設協会



世界劇場会議国際フォーラム Final

International Theatre Conference Forum Final in Saitama

in
さいたま

テーマ | **劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているか**
～文化芸術による社会的処方箋活動の実践と評価～

劇場が「社会機関」としてその公益性が期待される時代になりつつあります。貧困、格差、差別、つながりの欠如等に起因する「生きづらさ」や「生きにくさ」からの解放を使命とする、「文化芸術の社会包摂機能」を根底に据えた事業の重要性が求められています。

今回のフォーラムでは、国内外からさまざまな社会活動や先進的な劇場経営・文化政策を行っているゲストを招き、我が国の劇場が目指すべきことをパネルディスカッションで議論します。文化芸術における社会包摂、その先の社会的処方箋活動の実践に関する議論を展開できればと思っています。

1/31 火 受付12:00
13:00-19:00 会場：多目的ホール

13:00-14:10 緊急Session

「文化芸術の存続の危機、日英の社会情勢を共有する」
セーラ・ジー、福島 明夫、衛 紀生

14:20-15:00 講演Ⅰ

「英国における社会的処方箋の先進事例について」
ゾイ・アームフィールド

15:00-15:40 講演Ⅱ

「『共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点』が取り組む文化的処方」
伊藤 達矢

16:00-19:00 Session I

「セッション①」
セーラ・ジー / ゾイ・アームフィールド
福島 明夫 / 伊藤 達矢 / 衛 紀生
コーディネーター 細井 昭男

2/1 水 10:00-16:30 会場：多目的ホール

10:00-12:00 事例報告

「alaの社会的処方を援用した取り組み『まち元気プロジェクトver.2.0』」について
栗田 康弘

「四国子どもとおとなの医療センターの取り組み」
森 合音
コーディネーター 細井 昭男

13:00-13:40 講演Ⅲ

「文化芸術の社会的価値を伝える評価の役割」
源 由理子

13:50-16:30 Session II

「セッション②」
セーラ・ジー / ゾイ・アームフィールド / 福島 明夫
森 合音 / 源 由理子 / 衛 紀生 / 栗田 康弘
下斗米 隆 / 山出 文男
コーディネーター 細井 昭男

ご挨拶

可児市文化創造センター シニアアドバイザー兼まち元気そうだん室長

Greetings

衛 紀生 Kisei Ei



ファイナルからの出立を。

世界劇場会議国際フォーラムは、2013年に「社会機関としての劇場＝公共劇場は何処にある」をタイトルに、『第三次基本方針』ではじめて「文化芸術の社会包摂機能」が文言化され、公的支援を「社会的必要に基づく戦略的投資」と位置づけられたのを受けて社会は文化芸術に何を求めているのかを自問する旅立ちをしました。その間に、会場を愛知県芸術文化センターから可児市文化創造センターalaに移して、その時々、社会と私たち劇場との関心事をテーマに掲げ、それでも「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているか」を通奏低音として、とりわけて「社会包摂」における文化芸術と劇場・音楽堂の役割を全国に発信してきました。そして、今回をもって、その役割から降りることを決意しました。コロナ禍が、日英の劇場の先行きに深い翳を落としています。さらにインフレとエネルギー価格の3倍～4倍とも予想される高騰など、決して明るい明日は約束されてはいません。

しかし、私たちは、社会とのコミットメントという未来をはらんで、愛好者に限定されるマーケットから、共感と共創の共有価値マーケットという「明日」への出立をデザインしています。最後にあたって、多くの皆様と共有した時間は、必ずや実現するとお誓いして、ファイナルのご挨拶といたします。ありがとうございました。

Panellists

パネラー

セーラ・ジー Sarah Gee

スピタルフィールズ・ミュージック代表理事

オーケストラでの業務を経て、鑑賞者開発、資金調達、組織開発のコンサルタントとして、芸術文化組織の分野で30年の経験を持つ。コンサルティング活動に加え、2019年から東ロンドンを拠点とする芸術チャリティ、スピタルフィールズ・ミュージックの非常任代表理事を務める。ヨーロッパや日本、中東などでプリティッシュカウンスル及び欧州放送連合等が主催する人材育成や会議の統括なども務める。プリティッシュ・アメリカン・プロジェクト副理事長、ロイヤル・フィルハーモニック協会理事、及びロイヤル・ソサエティ・オブ・アーツ・フェロー。



福島 明夫 Akio Fukushima

青年劇場 劇団製作責任者

1977年青年劇場入団、以来演劇製作畑を歩む。1988年より製作部長。1997年青年劇場代表就任。1999年より、(社)日本劇団協議会常務理事。2007年より現在に至るまで(公社)日本劇団協議会専務理事。また、(公社)日本芸能実演家団体協議会(芸団協)でも委員を歴任し、2014年から現在まで常務理事を務める。また1987年より日本新劇製作者協会理事。なお、2022年劇団代表退任。現在は劇団製作責任者を務める。劇団協議会、芸団協での活動を通じて、芸能実演、演劇文化の振興に尽力してきたが、2020年のコロナ禍以降、演劇緊急支援プロジェクトの中軸を担う。



森 合音 Aine Mori

四国子どもとおとなの医療センターアートディレクター
NPOアーツプロジェクト理事長

2005年富士フォトサロン新人賞受賞 写真家として活動。2009年独立行政法人国立病院機構香川小児病院での壁画制作をきっかけにアートディレクターとして同病院勤務。2012年四国子どもとおとなの医療センター建設時、病院全体のアートディレクションを担当。現在アートディレクターとして同病院勤務。



ゾイ・アームフィールド Zoë Armfield

ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー ラーニング主任

「音楽を通して人生を豊かにし変えていく」がロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニーのミッション。このフィルハーモニーの年間10万人の参加者を対象とした、音楽教育、才能開発、社会行動、健康に関する事業を14年間率いる。音楽の力による人々のウェルビーイングの向上、回復力の促進、人生のチャンスの増大に情熱を燃やし、多様性と包摂性を中心に据えた事業を実施。NHS(英国国民保健サービス)、教育機関、コミュニティグループ、アーティスト、芸術機関、寄付者及び資金提供者と協働し、受賞歴とインパクトのある長期的なパートナーシップを展開。



伊藤 達矢 Tatsuya Ito

東京藝術大学社会連携センター 特任教授

1975年生まれ。東京藝術大学大学院芸術学美術教育後期博士課程修了(博士号取得) 東京都美術館と東京藝術大学のアートコミュニティ形成事業「とびらプロジェクト」など、多様な文化プログラムの企画立案に携わる。現在、東京藝術大学が中核となる「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」プロジェクトリーダー。共著に『ケアとアートの教室』(左右舎)、『美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト』(青幻舎)等。



源 由理子 Yuriko Minamoto

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

明治大学副学長(社会連携担当)。専門は、評価論、社会開発論、改善・変革のための評価、評価とエンパワメントをテーマとし、社会セクターの政策・事業の評価手法、評価制度構築、参加型・協働型評価に関する研究・実践を積む。これまで自治体、NPO、財団、企業のCSR等の評価実践現場を支援。編著に『参加型評価～改善と変革のための評価の実践』(見洋書房)、共編著に『プログラム評価ハンドブック』他、東京工業大学社会理工学研究科博士後期課程修了、博士(学術)。

Coordinators

総括責任者

下斗米 隆 Takashi Shimotomai

NPO法人
世界劇場会議名古屋 理事長

アドバイザー

山出 文男 Fumio Yamade

NPO法人
世界劇場会議名古屋 副理事長

コーディネーター

細井 昭男 Akio Hosoi

NPO法人
世界劇場会議名古屋 理事

コーディネーター

栗田 康弘 Yasuhiro Kurita

(公財)可児市文化芸術振興財団
顧客コミュニケーション室長